

ペットを飼うというこ とは、新しい家族を 迎え入れることです。

近年のペットブームで衝動買いや、ただぬいぐるみやアクセサリの一つとして飼ってしまう事が多いのにはすごく残念に思われます。「有名なあの歌手がチワワを飼っているから」、「高貴なあなたの方がヨークシャーテリアを飼っているから」といった理由で犬を飼おうとするのは、心理学で言うところの同一化現象と考えられます。これは、自分が尊敬していたり素敵だと感じている人物と同じ要素を備えることで、自分がその人物と同格になったような感覚に浸ることです。分かりますか？と、小学生の女の子がアイドル歌手のまねをするようなものです。犬を飼おうとしている動機の中にこの「同一化現象」が強くあるのです。ペットを飼うということは、命を預かるということです。

事前に勉強をして欲しいですね。【家族の一員】を迎えるわけですから、単純にカッコや流行だけでなく、その犬種の性格・大きさ・必要な運動量・訓練性能などを、考えて決めるべきだと信じています。純血種の場合は書籍やインターネットで公開されていますし、本で調べただけでなく、近所の犬のお散歩ルートに行ってみたり、近所の犬の声を聞かせてもらいましょう。そして触らせてもらいましょう。そうすると生の意見や驚くべき事実がわかりますよ。

知り合いにゴールデンレトリバーを飼いたいというかたがいらつしゃったのですが、飼う前からレトリバークラブに入会され、まだ犬を飼っていないのに犬と一緒にキャンプに子供と家族4人で参加されて勉強されました。その後そこで知り合った方からブリーダーを紹介されて、元気で健康なゴールデンレトリバーを迎えられました。そこまで真剣に時間をかけて選ばれた愛犬は幸せですよ。

ペットを飼う上で、動物愛護法で定められている事があります。

一動物の所有者又は占有者は、命あるものである動物の所有者又は占有者として動物の愛護及び管理に関する責任を十分に自覚して、その動物をその種類、習性等に応じて適正に飼養し、又は保管することにより、動物の健康及び安全を保持するように努めるとともに、動物が人の生命、身体若しくは財産に害を加え、生活環境の保全上の支障を生じさせ、又は人に迷惑を及ぼすことのないように努めなければならない。要するに「ペットは我が子のように可愛がらましよう」「ペットが他人に迷惑をかけないように監督しましよよう」ということです。パチンコに行っている間、灼熱の車内にペットを置き去りにしない、犬の皮膚にポッコリと腫瘍ができていないのに放置しない、他人の玄関前に糞をしない、土佐犬を放し飼いにしない、など当然のことですね。



▲パスタパパこと戸松 寛人(とまつひろと)さんと2代目看板犬ボーノ。1961年、静岡県駿東郡清水町生まれ。初代看板犬はパスタ。

初めて犬を迎え入れるとき、知っておいてほしいこと。

ペットはぬいぐるみではなく愛情を必要とする生き物です。特に犬は散歩が欠かせませんので、毎日一定の時間と労力を犠牲にする必要があります。犬の寿命は人間よりも短く、あつという間に老境がやってきます。犬が老いて認知症にかかり、飼い主を見分けることができなくなったり呼びかけに答えなくなるのはさびしいことです。しかしそういう状態になってもペットに対する愛情を失わない強い意識が必要です。

残念なことに、毎年殺処分(さつしよぶん)とは、保健所や動物愛護センターなどで命を奪われること)される犬や猫が後を絶ちません。その背景には、安易な動機や単なる思いつきでペットを飼育してしまい、結局負担になって捨ててしまう飼い主の存在が、少なからず存在しています。

